

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A人の一生と家族・家庭及び福祉 【知識及び技能】・ライフステージごとの発達課題やライフイベントについて理解する。 ・家族に関する法律を知り、その理念や現在の動きについて学習する。 【思考力、判断力、表現力】 ・青年期の生き方について自立の観点から学習する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・男女参画社会の推進について理解する。 （家庭学基礎、職業学基礎）	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・各ライフステージごとの発達課題について理解し、それぞれの発達段階で起こり得るライフイベントに関連させて理解することが出来る。 ・民法改正について理解し、法律と自分のかかわりについて理解する。 ・自分自身の生活を見つめ、自立に向けて課題を発見し、将来の発達課題とも関わらせ自身の将来について思考・判断することが出来る。 ・男女参画社会など現在の社会状況について興味を持って知ろうとする態度がある。	○	○	○	6
	B衣食住の生活の自立と設計（食生活） 【知識及び技能】・5大栄養素と水について学習し、体とのつながりについて考える。 【思考力、判断力、表現力】・食べることと健康のかかわり、現代の食生活と問題点について学習する。・食中毒・食品表示の学習を通して食品衛生と安全について学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】・健康な生活を営むために何をしてだけ食べればよいか献立作成を通して学習する。 【知識及び技能・思考力、判断力、表現力】 ・調理の一連の流れを実践し、その理論やコツを学習する。 定期考査	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・5大栄養素と水について体の中での働きを科学的な視点をもって知識を深めようとしている。 ・自分の食生活について振り返り課題を見つけ、改善に向けて積極的に取り組もうとしている。 ・食中毒・食品添加物等について学び適切な食品選び衛生管理ができる。 ・食事摂取基準・食品群別摂取量のめやすを利用しながら自分・家族の食事計画・献立作成ができる。 ・調理実習において効率について判断しながら積極的に取り組むことができる	○	○	○	18
				○	○	○	1
2 学 期	C持続可能な消費生活・環境 【知識及び技能】・家計の構成（収入・支出）を学習する。・様々な契約や主体的な消費行動について学習する。 【思考力、判断力、表現力】近年の消費者問題を捉え、他者に対して注意点を発信することができる。【学びに向かう力、人間性等】・持続可能な社会に向けて自らの行動や選択を見つめなおす。	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・家計の構成、収入と支出の種類と特徴がわかる。 ・契約の基本的なしくみを理解し、さまざまな支払方法や問題のある販売方法を理解する。 ・様々な消費者問題（悪質商法・多重債務）を理解し、他者に対して被害に合わないよう情報発信することができる。 ・実際の生活において、環境に配慮した消費行動をとることができる。	○	○	○	10
	B衣食住の生活の自立と設計（住生活） 【知識及び技能・思考力、判断力、表現力】 ・一人暮らしの部屋探しを通して平面図の読み取り・快適な室内環境について学習し、自身の住まいについて表現する。 【学びに向かう力、人間性等】・環境に配慮した住まいづくりについて学習する。	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・平面図を読み取ることができ、健康的な住まい環境における基本的な知識が身についている。自身の住まいについて考えることができる。 ・地域社会とのかかわりも含めて、よりよい住環境とは何かを理解できる。	○	○	○	6
	B衣食住の生活の自立と設計（衣生活） 【知識及び技能】・簡単な小物製作を通して手縫いの基礎を体得する。 【思考力、判断力、表現力】・人と衣服のかかわりや衣服の機能について学習する 【学びに向かう力、人間性等】・衣服の入手、管理から処分までの流れを学習し、環境へ配慮した衣生活について考える。 定期考査	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・手縫いの基礎を身につけ、簡単な衣服の修繕が出来る ・自然環境と衣服との関わり、社会環境と衣服の関係から衣服が持つ機能を理解する。 ・衣服の入手、管理から処分までの流れを理解し、環境に配慮した衣生活が営むことができる	○	○	○	10
			○	○	○	1	
3 学 期	A人の一生と家族・家庭及び福祉（子ども） 【知識及び技能】 ・子どもの身体の成長・発達について大まかな流れと特徴を学ぶ ・子どもを産み育てる意義と人間形成の過程について考える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・子育てにおける社会環境、仕事と子育てが両立できる環境について考える。	・講義、実習、個人での活動、グループワーク、考察、発表などを行い、指導目標について指導する。 ・教科書、プリント、実習物等を教材とする	・誕生から幼児期までの子どもの身体の発達について理解する。 ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することが出来る。 ・家庭・集団保育の重要性を理解し、子どもが健やかに育つためにどのような社会的な環境が整えられているのか理解できる。	○	○	○	12
	A人の一生と家族・家庭及び福祉（高齢者） 【知識及び技能】・高齢社会の現状、心身の変化と課題について学習する。 【思考力、判断力、表現力】・高齢者介護について、簡単な介助について体得する。 【学びに向かう力、人間性等】・介護保険制度について学び、自身の居住エリアのサービス・施設などを調査する。		・統計により、現在の高齢化の進む社会について理解することができる。加齢に伴う心身の変化や特徴について理解できる。 ・ボディメカニクスについて理解し、簡単な介助をすることができる。 ・介護保険のしくみを理解し、自身のこと、家族のことと結びつけながら考えようとしている。	○	○	○	
	【学びに向かう力、人間性等】・家庭基礎の1年間の学習を生かして自分らしい生活を設計する 定期考査	・レポート	・家庭基礎の1年間の学習を振り返り、自分らしい生活設計を立てることができる。	○	○	○	5
			○	○	○	1	
							合計
							70